

こども家庭センターにおける相談状況（不登校等）について

1. こども家庭センターへの相談件数（平成 30 年度）※速報値

種 別	内 容	件 数
養護相談	児童虐待その他家庭養育が困難な児童についての相談	2,343
障害相談	障害のある児童に関する相談	5,376
非行相談	ぐ犯行為、触法行為などのあった児童の相談	338
育成相談	児童の性格行動、不登校、家庭内暴力等に関する相談	488
その他	上記以外の相談	2
合計		8,547

2. 不登校に関する相談の状況（育成相談）

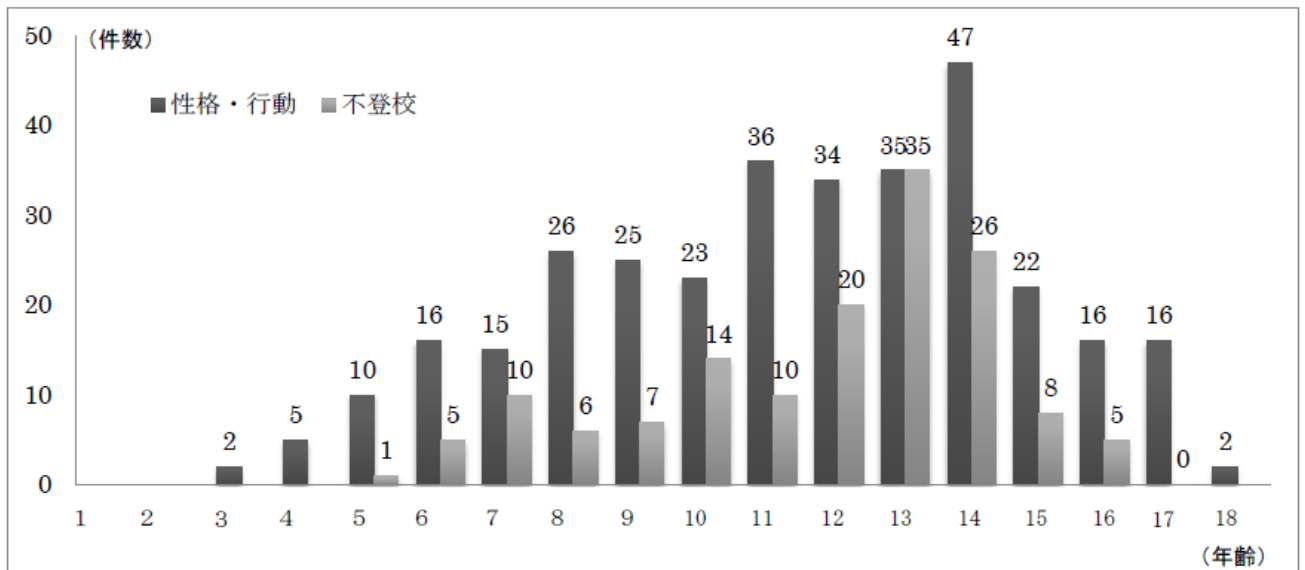
(1) 育成相談件数の推移

種 別 年 度	相 談 件 数					不 登 校 の 割 合 A / B (%)
	性 格 ・ 行 動	不 登 校 (A)	適 性	し つ け	総 件 数 (B)	
26	296	129	0	5	430	30.0
27	295	126	0	7	428	29.0
28	242	103	0	4	349	29.5
29	264	133	0	3	400	33.3
30	330	147	1	10	488	30.0

(2) 相談の内容

- こども家庭センターにおける不登校の相談内容の多くは、学校内でのいじめや人間関係のつまずきのため学校に行きたくないという児童の問題だけではなく、家庭内での様々な出来事から派生する。
- 不登校と同時に家庭内暴力・反抗等、他の問題行動が重複して発現していたり、不登校の要因として明らかに虐待が疑われたりする場合も多く、不登校の状態は認めつつも対応に緊急性を要する他の相談内容を主訴として受け付けることも多い。
- また、スマートフォンの普及により誹謗・中傷等の書き込みからのトラブルに起因する友人関係の悪化や、ゲーム依存で生活リズムが崩れたり正常な対人関係が保てなくなったことが不登校の原因になったり、その反対に不登校状態の中でネットに依存するようになるなど、児童がネット社会の影響を大きく受けていることが近年の特徴である。

(3) 年齢別の相談受付状況（育成相談）



○不登校に関する相談については、中学生年齢に当たる12歳から14歳の年齢に相談が集中しているのが特徴である。

(4) 相談への対応

- 育成相談に対応していく過程において、児童の問題の背後にある様々な問題が見え隠れすることも多い。
- その内容は、児童自身の発達の問題や家族間の葛藤、家庭を取り巻く関係機関との不調和など多岐にわたる。
- 適切な助言指導で終結することもあるが、継続的な援助が必要な場合は、各種のソーシャルワーク、カウンセリング、心理療法等の技法による援助を行っていくこととなる。